

# 図書館から見たOAジャーナルへの期待

筑波大学附属図書館 内島秀樹

- ▶ アメリカのSPARCによるCreate Changeイニシャチブ  
代替誌の刊行支援による競争環境の創出  
**Organic Letters** ⇔ **Tetrahedron Letters**  
(ACS) (Elsevier)
- ▶ SPARC Japan = Create Changeの旗印を掲げていた  
主な事業は学会出版の支援(英文による)
- ▶ 国立大学図書館協議会(現在は協会)も、Create Changeを支援(=雑誌の危機の克服のため)

# Create Change

教員と図書館員の学術コミュニケーション活動を支援します。



学術コミュニケーションは、世界の研究コミュニティ及び教育コミュニティへ貢献するために存在しています。著者は、研究者、学生を含むすべての学者仲間と新しい知見を共有することを望んでいます。また読者は、関連するすべての文献にアクセスすることを望んでいます。

しかし、学術コミュニケーションの伝統的なシステムはもはや役に立っていません。世界中の図書館や関係機関は、学術情報資源の増大する量と高騰する価格に追いつけない状況にあります。著者は、研究成果を購読できるか、ライセンス契約により研究成果へのアクセスを許可された機関に所属している幸運な研究者との間だけで情報交換しているのです。読者は、その分野の重要な文献を知らないまま見逃し、僅かな関連する文献のみにアクセスしているに過ぎません。

学者と研究者の学術コミュニケーションの改善への努力を実現するには、学術コミュニティの参加が不可欠です。私たちと共に研究者のニーズと未来の研究者・学生のニーズにあった新しいシステムを発展させましょう。今が変革と創造のときです！

- ▶ SPARCによる機関リポジトリイニシャチブへの転換

Raym Crow

「The Case for Institutional

Repositories :A SPARC Position paper」(2002年)

.....2002~2012 IRとOAの興隆.....

- ▶ ゴールドOAイニシャチブ(日本は、、、?)

COPE (Compact for Open-Access Publishing Equity)

SCOAP3 (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics )

- ▶ Create Changeの延長上で、ゴールドOAを考える
- ▶ eLifeも、Create Changeの延長上で期待したい

# 図書館から見た将来展望

---

- ▶ Finch Reportの影響は？（イギリスは6%）
- ▶ 購読モデルから著者支払モデルへの移行
- ▶ 図書館を介さない学術コミュニケーションルートの拡大（傾向としては避けられない）
- ▶ OAは、運動を超えて、**図書館の実務に影響を及ぼしつつある**ことに自覚を持つ必要あり
  - **図書館の役割の再考**